



Challenging Tomorrow's Changes

「働き方改革」に関わる取組み ～ 長時間労働の抑制に向けて ～

2018年12月6日
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
人事部 次藤 智志

1. **当社について(会社概要)**
2. **長時間労働抑制に向けた施策(朝型勤務制度)**
3. **朝型勤務制度から一步進んだ改革**
4. **「働き方改革」の成果**
5. **健康経営への取組み**
6. **今後の目指すべき方向性**

1. 当社について（会社概要）

会 社 名 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（略称 CTC）

本社所在地 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル

代 表 者 代表取締役社長 菊地 哲

創 立 1972（昭和47）年 4月 1日

設 立 1979（昭和54）年 7月 11日

資 本 金 21,763百万円

社 員 数 単体 4,309名 / グループ 8,546名

事業 内容 コンピュータ・ネットワークシステムの販売・保守、ソフトウェアの受託開発、情報処理サービス、科学・工学系情報サービス、コンサルティング、サポート、データセンター事業、その他



Challenging Tomorrow's Changes

2. 長時間労働抑制に向けた施策（朝型勤務制度による意識改革）

< 導入の背景 >

多残業体質による、

- 36協定 / 安全配慮義務違反のレピュテーションリスク
- 活力ならびに労働力の低下リスク



- ① 長年に亘る長時間労働対策の限界
(ex. ノー残業デー、残業削減キャンペーン 等)
- ② 「お疲れ様です」の挨拶に現れる状況
▶ 「人×時間＝成果」の弊害!?
- ③ 伊藤忠商事の取り組み
▶ 良いものは真似してみよう！

2. 長時間労働抑制に向けた施策（朝型勤務制度による意識改革）

< 朝型勤務とは >

残業ありきの働き方を見直し、
9:00-17:30の勤務を基本とした**健康で効率的**な働き方

< 勤務の原則 >

[時間] : 9:00-17:30の勤務を基本とする。

20:00以降の勤務は「**原則禁止**」/深夜勤務および休日勤務は「**禁止**」

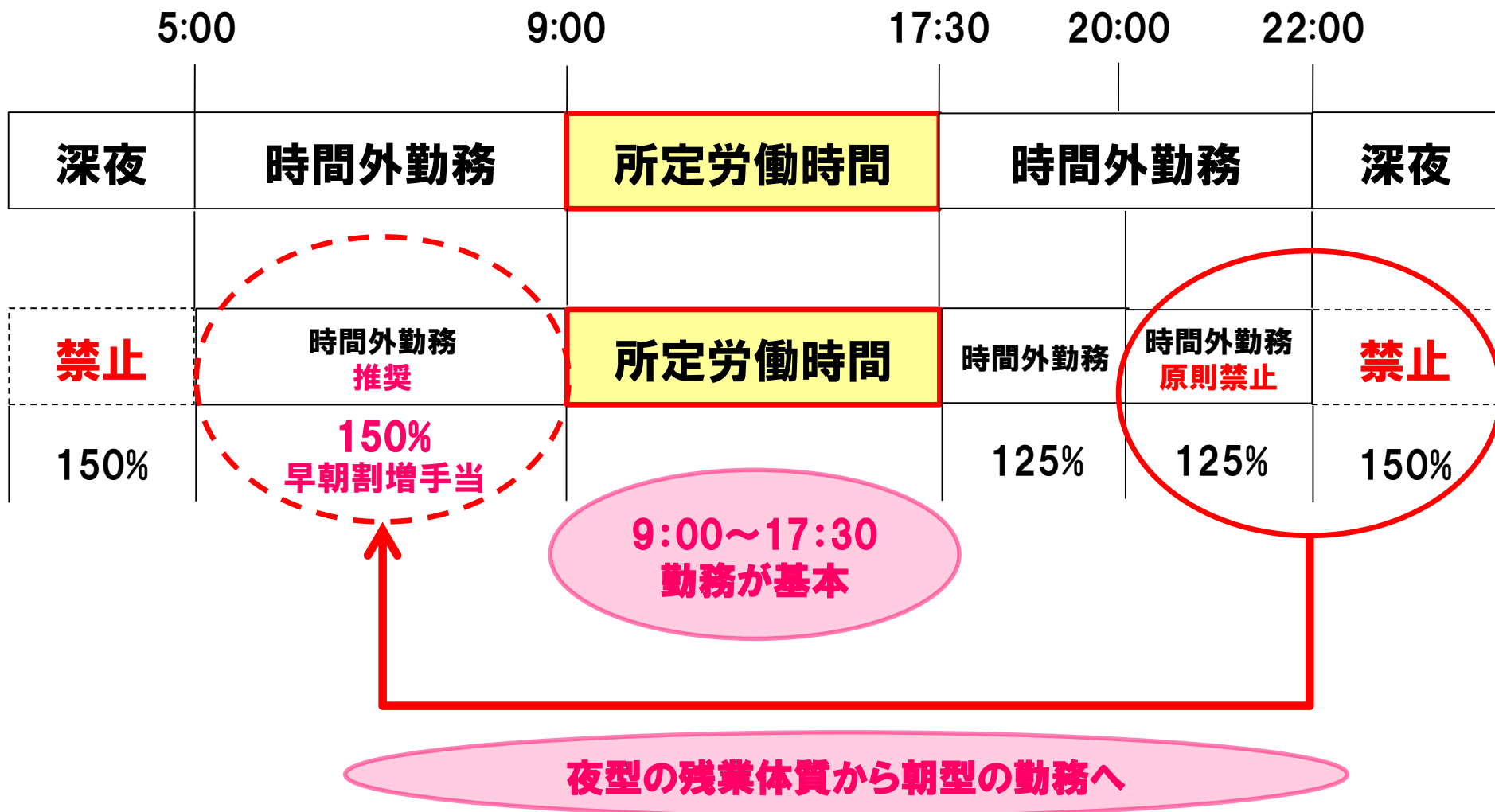
[場所] : 所定オフィス（会社オフィスや客先等）での勤務を基本とする。

- ▶ 夜型/休日の勤務は時間の制約がない上に、疲労が蓄積し、非効率/長時間になりがち
- ▶ 20:00以降におよぶ業務を翌日の早朝時間帯に切り替える

効率化 + ワークライフバランス

2. 長時間労働抑制に向けた施策（朝型勤務制度による意識改革）

< 朝型勤務の実施イメージ >



2. 長時間労働抑制に向けた施策（朝型勤務制度による意識改革）

< 朝型勤務に関わる取組み >

トップダウンによる推進とツールによる仕掛け

社長メッセージの発信

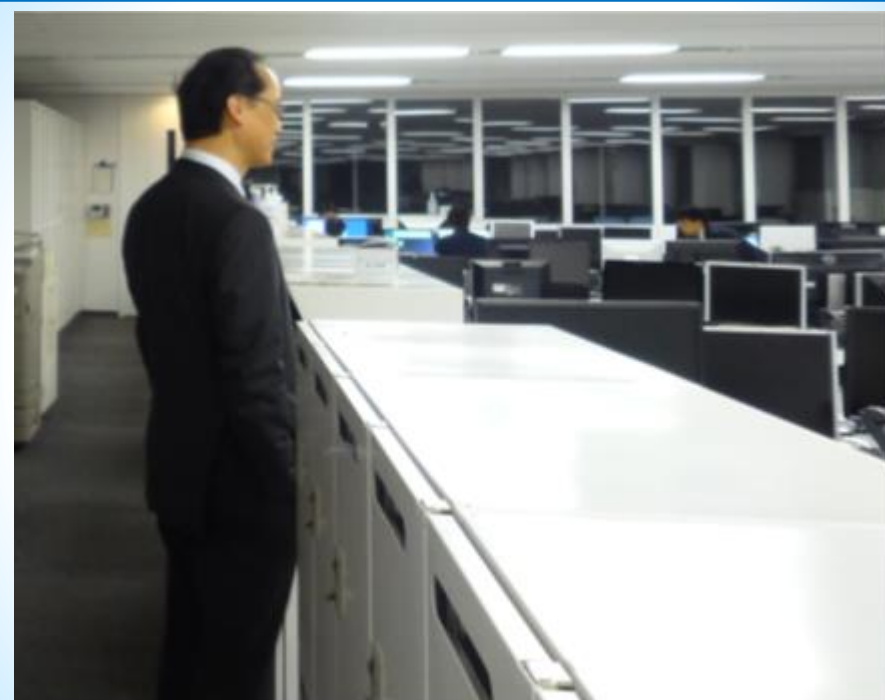
朝型勤務導入開始前から
会社の本気度を発信

社長によるオフィス巡回

社長と人事部長が20時に
事前予告なしにオフィスを巡回

労働時間の適正把握

ビーコンとシステムログによる
在社および業務時間の把握



社長によるオフィス巡回の様子

2. 長時間労働抑制に向けた施策（朝型勤務制度による意識改革）

< 社内誌によるメッセージの発信 >

様々な形で会社としての姿勢を発信

社内誌「Chorus」 発刊

CTCにおける
「働き方改革」などに関わる
取り組みや、コラム＆インタビュー
を掲載し、メッセージと併せて発信



2. 長時間労働抑制に向けた施策（朝型勤務制度による意識改革）

< 朝型勤務制度の成果 >

残業時間の大幅削減

前年の同時期と比較して、
全社の平均残業時間が**約10時間/月**の削減

良い変化の実感

働き方のメリハリ/業務効率化（見える化/区分化/単位化）など
メリットを実感

そして、

「時間って**有限**なんだ！」という気付き

3. 朝型勤務制度から一步進んだ改革

朝型勤務から一步踏み込んだ「働き方変革」へ

(2016年4月1日付制度改訂)

朝型勤務 + 時間の選択ができる勤務 + 場所の選択ができる勤務

- ▶ 働く「時間」と「場所」の自由度を高め、働きやすい環境を整備
- ▶ その結果、「働きにくい」を解消し、更なる働きがいをもって効率的/効果的な働き方に繋がることに期待

更なる「働き方変革」へ

長時間労働への対応

～2013年

朝型勤務推奨施策の導入
有給休暇の取得促進

2014年

時間単位有休の導入
スライドワークの導入
モバイルワークの導入
在宅勤務の拡充

2016年

テレワークトライアルの実施
コミュニケーションツールの導入
(FMCスマホ, チャットツール, ZOOM)

2017年～

3. 朝型勤務制度から一步進んだ改革

< 時間の選択ができる勤務 >

時間単位
有休

1時間単位での年次有給休暇の取得が可能に

従来の1日、半日単位の年次有給休暇に加え、毎年度3日分(24時間)について、1時間単位での取得が可能。

スライド
ワーク

所定就業時間の繰り上げ・繰り下げが可能に

週2回を限度に、7時～10時の範囲において、30分単位で始業時刻の繰り上げ・繰り下げが可能。

メリハリのある働き方へ

- ▶ 業務への影響を最小限にとどめながら、育児や介護等のライフイベントへの参加が可能に
- ▶ プライベートの時間を創出するために、効率的な業務推進へ
- ▶ 自己啓発や心身の充実をはじめ、ワークライフバランスの改善に

3. 朝型勤務制度から一步進んだ改革

< 場所の選択ができる勤務 >

モバイル
ワーク

外出時において、オフィス外での業務対応が可能に

所定の勤務オフィスでの勤務を基本としながらも、外出を伴う場合に限り、オフィス外での業務が可能に

在宅勤務

特殊な事情を抱えても業務対応が可能に

2010年4月1日導入済み / 2016年11月拡充

時間を効率的に使う働き方へ

▶ 移動時間や通勤時間の削減、または隙間時間の有効活用により、効率的な業務が可能に

3. 朝型勤務制度から一步進んだ改革

< 退社時間見える化カード >

(2016年11月～)

自律と協働に不可欠な「**コミュニケーションの促進**」を職場環境の面からサポートし、働き方変革の新しい仕組みを更に活用しやすくする
また自ら業務時間を提示することにより、**業務効率化**にも繋げる。



働き方に応じて合計20枚のカードを用意



専用のカードケース

3. 朝型勤務制度から一歩進んだ改革

< タッチダウンオフィスの導入 >

(2016年11月～)

モバイルワークの推進に資する外出時のモバイル環境整備。

外出時の**移動／隙間時間の活用**により効率的な業務につなげる。

セキュリティや防音に配慮された設備として
＜レンタルオフィス利用 (株)ザイマックス＞

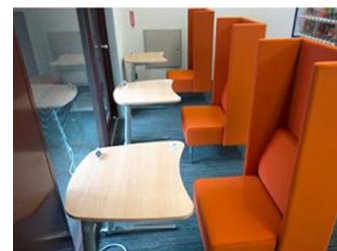
出店エリア



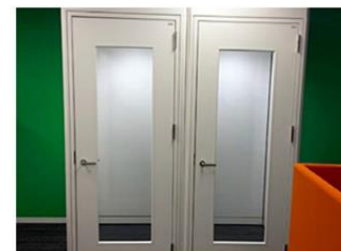
セキュリティゲート



ブース席



ソファ席



電話ボックス



打合わせ部屋



ロッカー

3. 朝型勤務制度から一步進んだ改革

< コミュニケーションロボット (OriHime) のトライアル >

在宅勤務者がまるでここにいるかのような存在感を実現する、
コミュニケーションロボットの導入に向け検証を実施中



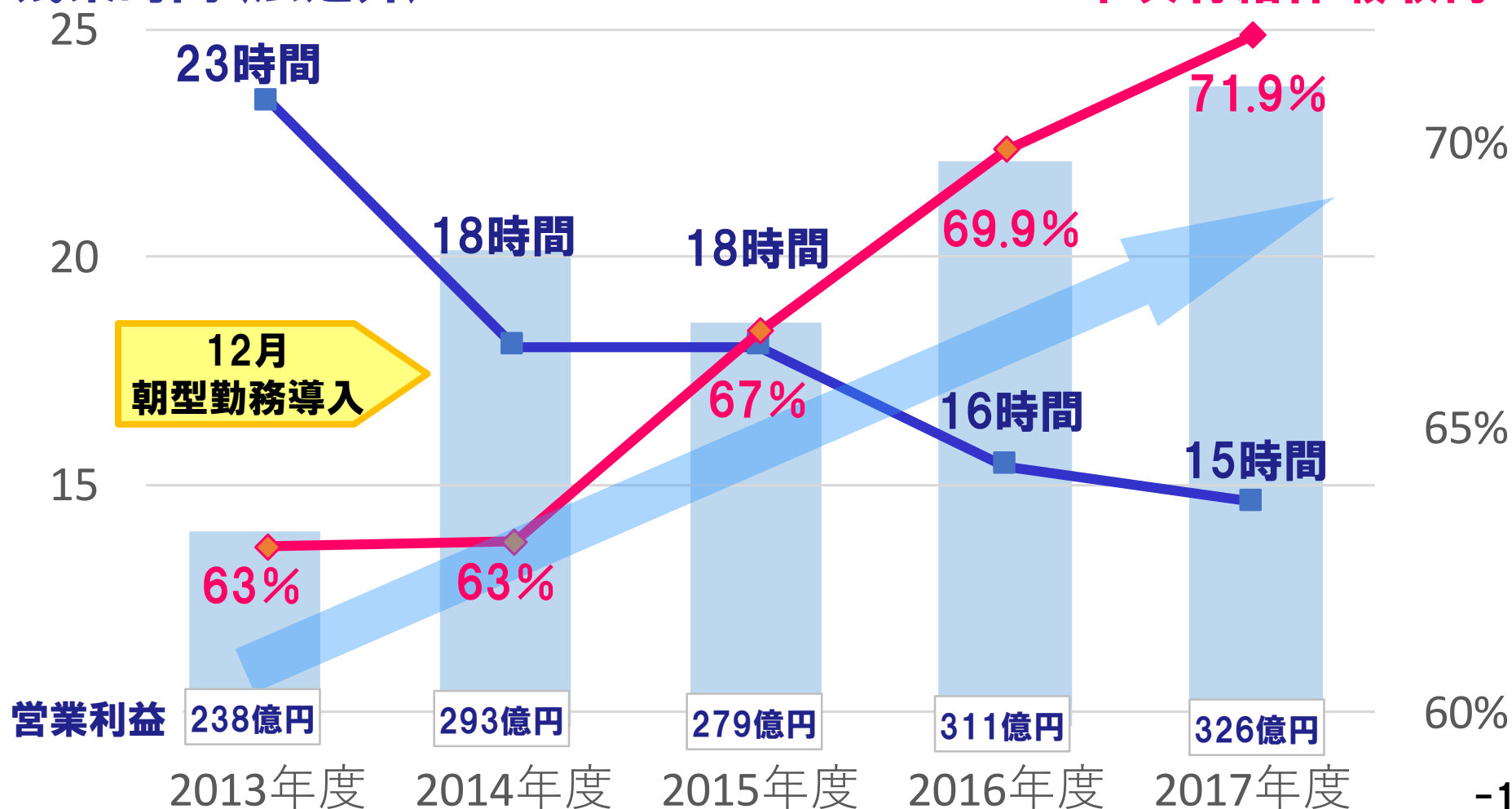
4. 「働き方改革」の成果

< 働き方改革の結果として… >

多残業体質からの脱却ならび有休取得率の向上

残業時間（法定外）

年次有給休暇取得率



5. 健康経営への取組み

<「健康宣言」について>

CTCとして健康への取組みを社内外に宣言

「健康宣言」

CTCは、社員が心身ともに健康で、
一人ひとりが持てる能力を最大限に発揮することが、
会社全体の活力の源泉であると考えています。



私たちは、これまで取り組んできた社員の健康保持・増進活動により一層取り組むことで、「**働きがいのある会社**」を目指して、会社、健康保険組合、社員とその家族が一体となって、
健康づくりを推進していきます。

またCTCの企業理念「明日を変えるITの可能性に挑み、夢のある豊かな社会の実現に貢献する。」に基づき、自社の取り組みを活かしたソリューションを提供することで、お客様のみならず、**社会の健康づくりをも支援していきます。**

5. 健康経営への取り組み

< がん 対策 >

がんの予防、早期に発見・治療しやすい体制を整え、社員が安心して働き続けられる環境づくりを実施

■主な取り組み

- e-learningによるがん予防の啓発
- 35歳以上の一般健康診断に子宮がん、乳がん等のがん検診項目を設定
- 国立がん研究センター等と連携し、「がん総合検診」を導入
- がん検診項目の二次検査費用を補助
- 「がん先進医療支援金制度」の導入
- 休業休職制度と復職支援プログラムの運用
- 仕事と病気の両立支援



東京都が実施する「平成29年度 がん患者の治療と仕事の両立への優良な取組を行う企業表彰」の大企業部門で奨励賞を受賞

5. 健康経営への取り組み

<健康増進に関する取り組みの一例>



カラダのゆがみ測定会



椅子ヨガセミナー



睡眠セミナー



女性の健康セミナー

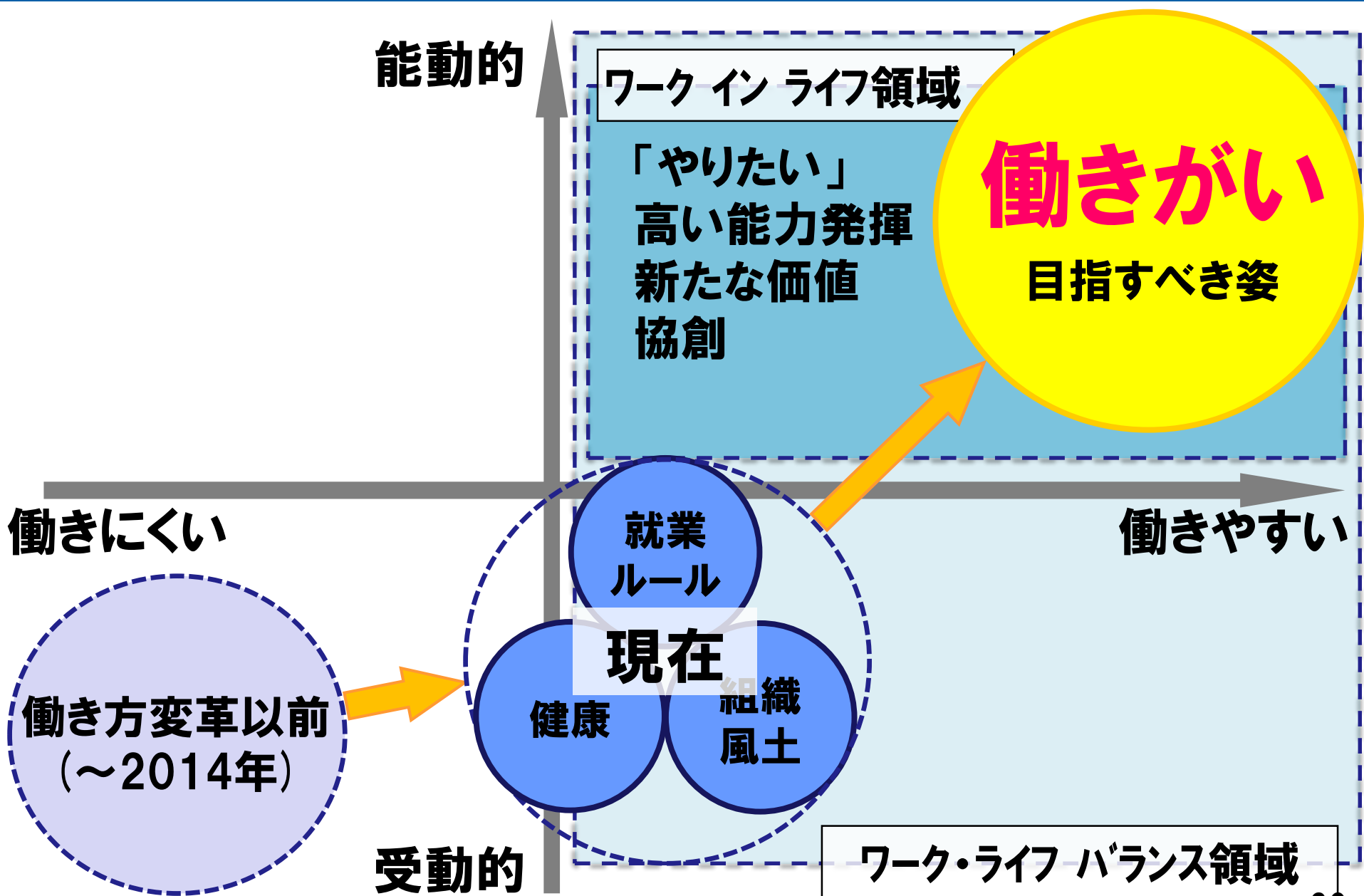


皇居Run&Walk



各種e-learning

6. 今後の目指すべき方向性①



6. 今後の目指すべき方向性②

意識を変える

- ・一人ひとりの意識変革
- ・新たなチームビルディング
- ・コミュニケーション活性化

効率的な
「働きがい」
のある仕事

仕組みを変える

- ・人事制度の整備
- ・業務の再点検と改善
- ・ITツール/基盤の活用

充実した
生活



▼ *Challenging Tomorrow's Changes*